

府 督 總 灣 臺
部 報 情 時 臨

報 部

昭和十二年九月二十日第三種郵便物認可
昭和十四年七月十一日發行
（十一月、廿一日發行）



- ☆ 聖戰二周年を迎へて
（臺灣憲兵隊長）
- ☆ 時局下に於ける臨時國勢調査
（總督官房企画部）
- ☆ 廣東訪日婦女團座談會
（情報部）
- ☆ 汕頭陥落と生徒児童の感激
（諸學校）
- ☆ 旬間日誌 ☆ 事變日誌

七月中旬號

（第六十七號）

(一) 肇國の大理想を顯揚し
東亞新秩序の建設を期す

(二) 大いに國民精神を昂揚し
國家總力の充實發揮を期す

(三) 一億一心各々その業務に精勵し
奉公の誠を效さむことを期す

國民精神總動員綱領

七月一日 (土)

○臺灣總督府米穀局及總督官房企畫部新設
▽金の國勢調査開始
▽人事調停法實施
▽全國安全週開始
▽廈門特別市政府成立

七月二日 (日)

○東西臺灣連絡道路開鑿に着手(花蓮)

旬 間 日 誌

港一入通關) 北京中國新民會「與亞」の宣言を發す

七月四日 (火)

○臺灣兒童畫展ロームで開かる

七月五日 (水)

○臺灣在住華僑我が將兵を慰問

○汕頭海關を正式接收

七月六日 (木)

○皇后陛下、戦死者遺族に御下賜品を賜ふ(臺北)
○高雄與亞展開催
○總督府評議會員の缺員補充
○懷互建築の獎勵に關する建築條令を改正
○第十二回論功行賞發表
○榮譽勳章軍夫もこの中にあり
○傷病勇士に對し介護用具を支給(傷兵保護院)
○深洲軍備擴張強化

七月七日 (金)

▽聖戰二周年記念日
○臺灣神社に於て聖戰祈願祭
○忠愛顯彰會誕生
▽軍事郵便週間
▽中小産業調査會正式決定
○全島一齊に排英大會行はる
○廣東訪日婦女團寄翠
▽天津、廈門にも排英熱昂る
○中央政權運動中支各地に展開

七月八日 (土)

▽國民徵用令公布(臺灣は十月一日より施行)
○臺北春季競馬始まる
○都市對抗野球臺灣豫選始まる

七月九日 (日)

○臺灣社會事業史
高松宮殿下より 有栖川宮記念學術獎勵金御下賜の光榮に浴す
○殉職、歿の勇士の慰靈祭(臺北)
○財團組織の下に寺廟の財産を整理(高雄)

七月十日 (月)

○護國英靈の告別式(藤重部隊)
○我等が郷土部隊一部歸還(臺北)
○東亞經濟懇談會創立

外國は印▽ 内國は印▽ 内島は印○



聖戦二周年を迎へて

臺灣憲兵隊長 酒井周吉

一、はしがき

支那事變勃發第二周年に當り「部報」を通し私の所懐を發表する機会を得たことを欣快と致します。

滿二年前の本月本日は、私は東京に勤務し七日早朝、六日の深夜から起つた盧溝橋の事件を知つて事の重大を直感した。何んとなれば、支那の抗日毎日事件の頻發を見出し、又著々外國武官指導下に抗日準備を實施して居ることを聞いて居たからである。當時軍當局に於ては現地解決を望み、不擴大方針であつた、然るに支那側の帝國に對する認識不足と支那出先軍の無統制等により無誠意、無禮、不信行爲は遂に日本をして不擴大方針を放棄するの止むを得ざるに到らしめ、遂にこの大戦争を誘致したのである。

爾來二年今や戦線九百里、支那兵の死傷者二百三十萬を算し、良民慘死無數、家を焼かれ、産を失ふもの數を知らず、あらゆる慘禍に遇ひつゝあり、この支那大衆の悲惨は實に蔣介石一派の無反省と非人道に依るのは勿論なるも、その背後に之を操縦する第三國の致す所と考へ憤懣に堪へない所である。

我が國も又已に六萬有餘の將兵を失つた。この東亞の人柱となつた英靈に對し、本日感謝の念を新にしなければならぬと思ふのである。

この重大なる記念日に當りて吾々は沈思熟考、その直進すべき道を求め、總親和の實を擧げねばならないと

考へるのである。これから私は事變の本質と推移の概要とを簡単に述べ、序で將來の見透並に覺悟とについて述べたる後、所懐の一端を述べたいと思ふ。

二、支那事變の本質

今次事變は前述の如く日本は受身で始つたのであるが既に寶刀の鞘を抜いた以上、我が國是たる正義人道に立脚し、八紘一宇の精神に則り正々堂々その目的を達成しなければならぬ。

目的とは何ぞや、支那を迷夢より醒まさせしむることであり、東亞積年の禍根を斷つことである。東亞諸民族の共同更生の實を擧ぐることである。延いては世界の平和と福祉とを招來すべきことである。

而して本事變は右述べたるの目的を達するが爲めに、一方に支那を膺懲すると共に、その背後に存する第三國の勢力を排除しなければならぬ。又一方建設の大業を必要とするのである。これに依つて長期を要するといふ特質を持つて居る。

三、事變の推移

七月七日盧溝橋事件發生當時、堅持してゐた日本の不擴大方針も支那側の不法挑戰に依り、現地和平解決の途なく、遂に八月十五日に至り、日本政府は聲明を發して支那の暴戾を膺懲し、南京政府の反省を促すこととなり、茲に局地戦より全面戦に移つたのである。

爾來皇軍の向ふ處敵なく或は北支、蒙疆を平定し、十月には上海を攻略し、十二月には南京を占據するなど着々と威力を示したのであるが、哀れむべし、第三國の使嗾と援助とに依り、狂人の如く判斷を誤りたる蔣介石は更に、抗日を濠語するため一月十六日に日本政府は再聲明を發し、長期戦の決意を宣言し、蔣政権を相手

とせず、新興支那政權を期待し、容共抗日ならざるこれらの新政權と携へて、日滿支を樞軸とする支那の再建に協力することゝなつたのである。斯くして三月より徐州會戦に移り十月末には廣東を攻略し、十一月には武漢を陥れ、其他武昌、海南島の占據、近くは汕頭の占領など第三國の援蔣ルートを封じ、今や日本の占據地域は日本全土の二倍半に上り、その人口一億七千萬人に達してゐる。而も重要地點は殆んど全部これを占據せる状態である。又無敵海軍は支那海を完全に封鎖し、長江を制し、敵の艦船の大部分を撃沈し、完全に制海權を握つてゐるのである。

斯くの如き武力工作に、治安工作に完全に成功してゐると共に、北支には臨時政府、中支には維新政府又北には蒙疆政府が出来、各地には興亞院連絡部を設けられ、着々として建設の業が成りつゝあるのである。尙共存共榮の爲めに産業の開発が行はれ、經濟狀況も漸次安定に向つてゐるのである。

四、將來の見透し及び覺悟

以上の如く武力戦及び建設戦に奏功しつゝあるが、然らば事變は何時止むのであるか、これに對し結論は本事實は長く、未だ時にも達してゐない、事變はこれからが大事であると、答へなければならぬのである。何故かと申せば、目的が大であり、事業が多端、大仕掛であるからである。即ち支那を醒し、禍根を絶ち、興亞の實を擧げ、延いて世界の正しき平和を來たせしむるために戦ひながら國力を増進しなければならぬ。これがために長期戦なることは勿論、五年か十年か二十年か不明だが、目的達成までは斷乎適進を要するのである。これを個々に見ても蔣政權は現在一地方政權に過ぎないが、その逃げこんだ重慶は交通不便、又蔣は今更ソ聯と離れることを得ない程深入りしてゐるのである、故に蔣を潰滅するには、するだけでも相當に日を要する。又抗日支那軍は現在事變當初の意氣込みがなく弱つて居り、補充を重ねた急造兵とは云ひながら、尙百五十萬

を持つてゐる、又敗殘兵も五十萬近くある。又相當の共產軍も蠢動してゐる、彼の滿洲事變が三十萬の支那軍、二十萬の馬賊に對し、我が數箇の師團を持つて七箇年と年二億乃至三億圓の費用を使つて現在の立派なる状態になつた事を思へば、支那の安定は相當長びくは當然である。況んや建設そのものは性質上永年を要するのは言ふまでもない、更に又第三國、即ち正義人道に反する蔣を援けてゐる野心國の某々はこれを潰滅しなければならぬ状態に到るやも計られない。

現在「ノモンハン」ト、「ボイル湖」附近に於ける戰鬪を見てもこの感が一層深いのである。今やこの現實に直而して戦が止む所ではない、又戦に倦む所ではない、極力國力の消耗を少くする。否更に之を増加しなければならぬ、而して上下一體總力を擧げてこの興亞の大業完成に邁進しなければならぬのである。

一億の日本同胞、五千萬の滿洲同胞、更に多數の更生支那の大衆は、その人的要素と資源の一切を擧げてこの聖戦に向はねばならないのである。萬一少しでも、弛みを生ずるか、又は戦に倦むか、又は國力が消耗の色を現はすならば、野心を藏する國々は猛然として干渉を始め来る事は火を視るより瞭である。これに反し舉國一致目標に直進するならば、天祐を有する我が神國は八紘一宇の國是、益々その光を放ち、明瞭の東亞建設を期して俟つべきである。

五、希望

最後に所懐に代へて二つの希望を述べらる。

一つは防諜上の注意であり、二つは銃後の心懸けの點である。防諜上では「話すな、迷ふな、官憲に協力せよ」の三點を強調したい。

遺憾ながら日本の秘密は支那又ソ聯に澤山洩れてゐるのである。之等は如何なる經路を經るか茲に述べる時間を有しないが、どうか皆様の兄弟知人に軍籍に在る方が多いだらふが、これらより聞く如何なる談片も人

に話さないことが大切である。人情として知邊から聞いた事は話したいものであるが、その談片によつても秘密の全貌が洩れる事もあるし、又何等價値がないと思ふ事柄も多数綜合すると立派な判断がつくのである。どうか聞いた事は云はない、又軍事に關する手紙などあればすぐ焼いて下さい。

次に現在は逆宣傳の盛んなる世の中である。殊に相手蔣政権は嘘八百を並べるのである。又共產黨、共產軍は嘘報の本家である。何日如何なる逆宣傳をして來るかも知れず、否已に毎日逆宣傳をどしどし實施して居るのである。例へば現在吾々が斯く平穩に暮してゐる臺灣が暴動によつてめちゃ／＼になつてゐると傳へて居るのである。又彼等の逆報道によれば、日本軍は毎日全滅してゐる。甚だしきは蔣介石は大阪に乘込んで、東京は支那軍に圍まれてゐると云ふ様な事柄が無智なる支那兵の一部に信ぜられてゐる。これを馬鹿げたる宣傳として笑つただけでは濟まない。なんとすればこの程南洋から日本に來た者は、日本が支那の飛行機に依り約八割は潰滅してゐると宣傳を受けて之を信じて來たが、海上より下關を見て、何等變りなきに驚き、更に神戸に上陸して何處に爆彈が落ちたかを探つね廻り、無根なる事を知つて驚いたといふ事實がある。

逆宣傳の恐るべきは誠に痛感する次第である。故に今後如何なる宣傳が來るかも知らぬが、我國に不利なる事を傳へらるゝ時は、必ず敵の逆宣傳と思つてよろしい。決して之を信じてはならぬ、即ちこの際は我が國力を信ずる事が必要である。萬邦無比の國體を有する國、難に遭ふ度に益々強くなる日本、忠勇無比の軍人を有する日本、米有り、魚有り、食料に豊かなる日本、底知れぬ力を有する日本を信じなければならぬ、例へば空襲あるも驚くに足らず、又世界全部を敵とするも驚くに足らないのである。この覺悟が必要である。

又官憲に協力することは、皆様の見聞したことで、怪しいと思ふこと、日本に不利なりと思ふことがあつたならば、人に話さず、すぐ警察官又は憲兵に傳へて相談して貰ひたい。

歐洲大戰の時に獨逸が物資に困つた際に英佛の間諜が各地で、獨逸人は科學發達を利用して油を戦死者の死

體から取ると言ひ振らしたのであるが、聞いた者は獨逸の科學能力と物資缺乏とを考へて之を誤信し、一月も経ないうちに全世界に誠しやかに傳へられて獨逸は人道同情を失し、非常に損な立場になつたこともある、かゝる場合には第一に聞いたものは、人に語らないうちに官憲に相談するならば傳播することなく済んだと思ふのである。之は一例であるが總て流言その他怪しきことは人に語らないうちに官憲に協力することを希望する所以である。

尙官憲に申告する場合は出来るだけ直接に話して貰ひたい。又書面に依る場合は、成る可く住所氏名を記載して貰ひたい、決して御迷惑をかけない、こゝに附加して御願してを、最後に銃後の熱誠に感謝しつゝ更に次の心掛けに御注意を望むのである。

私は毎日新聞紙上に銃後の熱誠のあらはれを見て感謝の念に堪へないことが度々である。又私は今事變發生數箇月後に内地の東北地方を廻つてその銃後の状況を見たことがあつたが、老いたる翁又は幼き婦女に至るまで出征兵の見送に或は遺骨に對し手を合せて頭を下げる、その眞摯なる態度を見てこの銃後の精神こそ我が國の兵を強くする所以だと痛く胸を打たれたことがある。

然るに昨年末臺灣に參つてこゝでも再び幾度か感謝すべき場面を見聞してゐるのである。例へば憲兵隊に従軍志願の涙ぐましき熱意溢るゝ手紙を見ることが度々ある。又國婦、愛婦の方々が暑さをいとはず、活動されてゐる事實、何等利益關係のない方々が心からなる慰問の爲或は廣東、海南島、厦門等に續々と行かれる熱誠、殊に小學生其他幼少年が表はす無邪氣な又は涙ぐましき献金又は慰問の事實等これである。

本島人にして従軍したる者も數百人に及んだが皆立派な成果を擧げてゐる。

尙最近の金獻運動に對し、表はされたる本島人の熱誠、又高砂族の者にして従軍を希望するものが多い事實又、本島に於ける華僑が各地に呼びかけ、新東亞の建設に協力せんとしてゐる事實等感謝感激の例は山程ある

が更に次の點に就て御注意を希望してをきたい。

戰場から歸つた將兵の言に依れば、何が一番痛れしかつたかとの問に對し、銃後の安定を聞くことだとの答をなすものが大部分である。而して物質よりも精神的の慰めが有難いと答へる。郷里が無事だ、仕事に差支なしと云ふ事を聞いて安心してお國の爲に死んで行けると云ふものが多いのである。

物質よりも精神、否この兩々相俟つて第一線慰問の効果は擧ると思ふのである。若しこれに反し、銃後の者が遊山、又は映畫に耽ける事を知れば第一線は如何なる感を持ちませう、又病院に着飾つた婦人の見舞は有難さが薄いと云ふ事である、この程大衆作家の中野實君が話した中に、東京に歸つた時、一番感激した事は自分の留守中に度々見舞つてくれた人の有難さである。又東京に來た際に態々立寄つて留守を見舞に來てくれた人の情であると云つてゐる。これは中野實君一人の感でなく實に萬人の聲であると考へるのである。

以上は多く出征者に關する事であるが、更に之れよりも大切な事は戦死者遺族の慰めである。國家は之等に對し、出來るだけ優遇してゐる、又官憲、自治團體等でも出來るだけ盡してゐるが、併しその知人又は隣人の精神的慰めこそ最も必要と考へるのである。尙私は朝鮮に勤務の際、白衣の同胞が出征軍人の通過に際し或は國旗を振り、或は畑にて手を振り萬歳を叫んだ事柄が、第一線の將兵に如何に力附けたかの實例を餘りに多く知つてゐる、臺灣に於てこの點に一層御考慮を希望するのである。

最後に皆様に愉快なる御紹介をしたい、臺灣に居る兵隊の中に僅少の手當を貯めて國防献金をしてゐる兵が多數あるのである。又應召に際し、貰つた餉別を献金したり、或は知邊の戦地者遺族に送つてゐる兵が少くないのである。どうかこれらの立派なる兵隊さんを勵ましてやつて下さい。慰めてやつて下さい。この緊張すべき記念日を通じ、皆様にお願ひするのである。斯くして第一線將士と銃後の戰士たる皆様と一體となつて以つてこの興亞の大業完成を期し得られると思ひます。



時局下に於ける臨時國勢調査

總督官房企畫部

本年八月一日を期して臨時國勢調査が實施せられることとなつたのであるが、此の國勢調査は時局下に於ける國民の日常生活に消費せられる物資の數量及金額を商業機構を通じて觀察し、其の消費の狀況及地域的分布並に配給の狀況を審かにすると同時に是れに依つて現下に於ける諸般の政策の立案及實施に資することを目的として居り、從來十年又は五年毎に行はれた人口に關する國勢調査とは大いに其の趣を異にして居るのである。

今次の支那事變も愈々長期建設の段階に入り益々國民精神の精華を宣揚し國家の總力を集中して東亞新秩序の建設に向つて凡ゆる難衝を突破し勇往邁進せねばならぬのであつて、是が爲には有効にして適切なる各種の計畫を樹立し經濟戦に備へねばならぬのである。殊に國防の

充實、生産力の擴充、貿易の振興等に關する重要な施策は國民の實生活との調和を計り、時局下に即應したる對策を樹てねばならぬのであるから、國民消費の實狀況に配給機關の狀況を審かにすることは所謂戰時經濟の基礎ともなるのであつて、以上の理由に因り今回の國勢調査の實施を見るに至つたのである。

今回の國勢調査は臨時特別のものであつて、其の内容も極めて複雑多岐に亘つて居り、物品販賣業者、物品買の仲介業者、法人組合その他にして物品の販賣又は買の仲介を爲すもの、旅館、料理店、飲食店、工場、寄宿舎、病院、船舶等に就き國民消費生活に要する物資の高を調査するのであるから、此の調査は「消費の國勢調査」或は「物の國勢調査」とも言ふべきものである。本調査の

概要に付て一般的實地調査と標本的實地調査とに別けて述べる。

一般的實地調査に付ては勅令第二條に規定してある(一)物品販賣業を営むもの(二)物品買入の仲介業を営むもの(三)法人、組合その他にして物品の販賣又は買入の仲介を爲すもの(四)旅館、料理店、飲食店其他の之に準ずべきもの及(五)常時五十人以上の職工を使用する工場、常時二十人以上の寄宿人を收容する寄宿舎若は之に準ずべきものに就て左の事項を調査する。

(一)乃至(三)の經營體に就ては(イ)經營體の名稱(名稱なきものは主任經營者の氏名)(ロ)本店支店の別(ハ)開業の年月(ニ)企業の種類(ホ)法人に在りては拂込資本金又は出資額(セ)營業又は事業の種類(ト)經營の形態(チ)從業者(リ)調査期日前一年間の卸賣小賣別賣上總金額(ヌ)内閣總理大臣の指定する物品(指定物品)の調査期日前一年間の卸賣小賣別賣上數量及金額(ル)指定物品中内閣總理大臣の特に指定するもの(特定物品)の現在手持數量の各事項を調査する。

(四)の經營體に於ては(イ)經營體の名稱(名稱なき場合は主任經營者の氏名)(ロ)本店支店の別(ハ)開業の年月(ニ)企業の種類(ホ)法人に在りては拂込資本金又は出資額(セ)營業又は事業の種類(ト)經營の形態(チ)從業者(リ)調査期日前一年間の卸賣小賣別賣上總金額(ヌ)内閣總理大臣の指定する物品(指定物品)の調査期日前一年間の卸賣小賣別賣上數量及金額(ル)指定物品中内閣總理大臣の特に指定するもの(特定物品)の現在手持數量の各事項を調査する。

日前一年間の指定物品の自家消費數量及金額を調査する。

(八)の經營體に就ては(イ)經營體の名稱(名稱なき場合は主任經營者の氏名)(ロ)調査期日前一年間に落成したる住宅の新築及増築の延坪數(ハ)調査期日前一年間に落成したる新築及増築に使用したる建築材料にして内閣總理大臣の指定するもの(指定建築材料)の使用數量及金額を調査するのである。

以上一般的調査及標本的調査の調査事項の内容を述べたのであるが、國民の消費調査の方法としては他の方法即ち物品の生産高、地域的移動及現在高を調査して算出する方法或は全世帯に付て家計調査を行ふ方法が考へられるが、是等の方法は實行上非常なる困難を伴ふものであるから比較的容易であり且配給機關の狀況をも明かにする事が出来る長所を有する今回の方法に依つて調査することゝなつたのである。

一般的實地調査も標本的調査も本年八月一日を期し帝國全領域に互り一齊に調査が行はれるのであるが、本調査も従来の國勢調査の如く國勢調査員を置き調査の事務の執行に當らしめるのであるが、今回は特に國勢調査指導員なる新たな制度を設け之を州、廳、郡及市に置き専ら調査事務を指導せしめ調査の圓滑を期する事としたのである。

組織(ホ)法人に在りては拂込資本金又は出資額(ハ)營業の種類(ト)從業者(チ)調査期日前一年間に卸賣業者又は生産業者より仕入れたる指定物品の仕入數量及金額を調査する。

(五)の經營體に就ては(イ)經營體の名稱(名稱なき場合は主任經營者の氏名)(ロ)工場又は寄宿舎に在りては事業の種類(ハ)調査期日前一年間に卸賣業者又は生産業者より購入したる指定物品の購入數量及金額を調査する。

標本的實地調査に付ては勅令第二條に規定してある(六)農業又は飲食料品製造業を営む經營體にして市尹街庄長の指定するもの(七)物品販賣業を営む經營體にして市尹街庄長の指定するもの(八)建築業を営む經營體にして市尹街庄長の指定するものに就て左の事項を調査する。

(六)の經營體に就ては(イ)經營體の名稱(名稱なき場合は主任經營者の氏名)(ロ)事業の種類(農業に付ては自作、小作、自作兼小作の別)(ハ)經營の規模(ニ)調査期日前一年間の指定物品の生産數量及金額(ホ)調査期日前一年間の指定物品の自家消費數量及金額を調査する。

(七)の經營體に就ては(イ)經營體の名稱(名稱なき場合は主任經營者の氏名)(ロ)營業の種類(ハ)經營の形態(ニ)從業者(ホ)調査期日前一年間の指定物品の賣上數量及金額(ハ)調査期

である。調査には國勢調査申告書を用ひ之を各調査經營體に配付し調査事項を記入申告せしむるのであつて、申告義務者となつた者は申告書に自ら記入申告するの義務を有するのである。尙指定物品を販賣、取扱又は仕入、購入を爲すと否とに拘はらず上述の各經營體の經營主は配付せられた申告書に記載してある該當事項に付ては必ず記入申告せねばならないのである。

本調査は上述の目的を以て行はれるのであるから之に依り課税標準等を求めんとするものではないのである。又申告書に記入された事項は統計作成の目的のみに之を使用し他に漏洩しないのであつて此の點に付ては嚴重なる規定が設けられて居る。

今次の調査は非常時局下に於て緊要なる基本的調査であるから此の調査の成否は其の影響する處極めて大なるものがあるのでは是非共成功せしめねばならぬ。殊に申告義務者は調査の趣旨、目的を十分に理解して誠實なる申告を爲すは勿論であり、官民協力して良好なる結果を得る様努力することこそ就後國民の至誠奉公の途であると謂ふべきである。



廣東訪日婦女團座談會

情報部

戦時體制下にある日本の姿を親しく見聞して、新廣東建設の上に役立たせたいと、廣東訪日婦女團の一行はその旅程を恙なく終へて寄臺された機会に、情報部及び共榮會が主催となり、恰も事變第二周年記念の七月七日、その訪日旅行中の意義深い感想談を訊く事とした。友邦中國婦人の特異なる觀察の一端を伺ふ事が出来やうと思ふ。

大塚「皆様長い御旅行の上に各方面に五つでの歓迎攻めでさぞお疲れのこととお察し致します。御疲れの所で却つて御迷惑でしたせうが、今晩は廣東とは特に縁故の深い情報部並びに共榮會が主催となつて座談會をしたいと思ひます。此處に居る人達の大部分は既に廣東に行かれた事のある方だし私も又参りました。

残つた人でも今後一度は廣東に行く人達ですから、何かとお力を借りる機会も多いと思ひます。何卒お心安く話して戴きたい。日本の感想、こちらからは廣東の話、打ちとけて話し合ひませう。」

呂團長「皆様がよくして下さるし、日支親善の爲でありますから私達は一つも疲れて居ません。何でも

座談會出席の

廣東訪日婦女團員

- 廣東治安維持會委員 呂劉慧瓊
- 長呂春榮氏夫人 石應蓮
- 廣東婦女維持會會長 商黃惠蓉
- 廣東治安維持會委員 同 陳露民氏令嬢 陳秀芝
- 同 陳露民氏令嬢 顏耀棠
- 廣東迅報社記者

聞いて下さい。」

大塚「今日は草山、北投あたりの温泉に御案内してゆつくりお話をうかがふ積りでしたが御存知の様に丁度支那事變の二周年に當り差支へたのでこの公會堂に於いて、何のもしなしも出来ず失禮しました。明朝出發の際には情報部の遠藤が御見送り旁々御案内役を致します。高雄で只今興亞展覽會を開催中でありましてが御覧になれば御参考になると思ひます。」

呂「興亞展を見せて戴いたらきつと非常な参考になるでせう。」

新田「初めて臺灣に於いた時の御感想は如何です。」

石「高雄で非常な歓迎を受けました、各婦人團體の熱心な歓迎をとて嬉しく感じました。丁度雨の日で

朝早く初めて神社に正式参拜を致し、日本人が等しく神様を信心するのに感心しました。自分の國の支那ではこの様に精神的に團結すると云ふ事が決してありません。」

新田「それは高雄の訓練場がよかつたなあ。」

大塚「臺北は如何でした。」

新田「汽車に乗つた丈でも變つた所がある筈だが如何。」

薛「今日は何だか試験されてゐるみたい。(一同大笑)」

薛「臺北に来る時は夜行でした。臺北の學校の實習ぶり、それから雨天體操場に感心しました。大阪で感じたことは重工業の發達してゐたこととです。」

大塚「支那では、重工業は行はれず外國から輸入してゐるが、然し日

- 惠群小學校教務主任 吳文舜
- 廣東婦女維持會書記 薛群貞
- 同宣傳主任 劉玉函
- 同交際主任(通譯) 黃玉娥
- 廣東領事館屬託 今井ヨシ
- 情報部側 大塚事務官外八名
- 日時 七月七日午後六時半
- 場所 臺北市公會堂

本はそれで立つ國である。當然の感想でせう。都會としては東京と大阪とどちらが好きですか？」

薛「大阪がよいと思ひます、大阪には色々學ぶ所がありました。鐘紡の淀川工場を見學して、思ひもつかないものが美しくなつてゆくのにびっくり致しました。例へば牛乳から

羊毛を作るなど。」

黄「私は事變の半年前に廣東に行きました。その時はまだ誰も通譯する人がなかつたので自分は日支親善の爲なら殺されてもよいと思つて通譯を志願しました。戦争になつたので自分も一度は東京に行き、どう云ふ風か様子を知りたく思つてゐました所、今度訪日團の一員に加へられたので喜んでゐます。私はこの歡迎の反面に戦争らしい気分がないのに驚きました。皇軍のおかげで日本に來る事が出来、各方面の盛大な歡迎、戦と云ふ気分は一つもなく一心にもてなして下さる。自分の身は抗日支那人にねらはれてゐる、然し無我境になつて日支親善に努めようと思つてゐます。殊に門司に着いた時關門海底トンネルを見て戦争中にそんな



(寫眞は當日の座談會)

大事業が完成したのに感心した、さう云ふ日本であるからこそ益々強く大きな國になつて行くのだと思ひました。」

劉「私は今回一緒に來た團員の一入であります、先づ自分の事を先に宣傳します。私は事變四、五年前から日本の美術史の研究をしてゐたので前から日本に來たいと思つてゐました。」

今井「この人は育成小學校の教師です。」

劉「今回日本に來ても日数が短いのでその方面の研究が出来ないので残念です。各種建築の美術化、熱心さ、例へば玩具でも子供によい様に出来てゐる。物一つ一つ何でも研究し、統制して行く、例へば染色、皆使ひよい様に工夫されて行くのが偉

て下さい。」

團長「悪い方面を未だ知りません。」

小田原「和服を着た時の感想如何。」

陳「和服を着ると帯などで苦しいけれど、着てみると日本人と變らない姿になります。こゝに日支親善の可能なることを思ひます。」

大塚「なか／＼うまいですね。」

大塚「東京、大阪、臺灣婦人の違つた印象はありますか？」

劉「私の考へではどこの婦人がどうと云ふ事はありません。皆姉妹の様に思つて居ます。殊に家庭に於ける婦人には支那の婦人も及ばないと思ひます。」

大塚「最後に残つた方、感想は如何です。」

いと思ひました。色々話したらきりがありませんし、皆自分が云つてしまふと悪いから何卒次の方へ。」

佐藤「廣東で美術家聯盟を作つてゐるから、お歸りになつたら是非文化的仕事をして戴きたい。」

劉「さう云ふよい事があるのなら佐藤さんの下で働かして下さい。」

小田原「日本人の 皇室崇拝をどう思ひますか。」

呂「宮城!! 私達も宮城にお辭儀をしました、日本人が

天皇陛下をじかに拜めないのに拘らず誰でも皆一様にお辭儀をするのが不思議でした。この様に團結して國家を守る心があるので御國は強いのでせう。」

平山「日本のよい所を云ふのは出しがらだから悪い所をどし／＼云つ

顔「私は新聞記者とは云ふもの、團體で來て、一番感じたのは七月一日の福岡に行つた時でした。貴婦人ばかりの會の人達が眞夜中だと云ふのに自分のような新聞記者まで、停車場に出て待つてゐて下さつたのが大變有難いと思ひました。先刻、日本の悪い所をと申されましたが、私は日本軍のよい所を自身に感じた話を致します。私が新聞社に働く様になつた時廣東の町は婦人の影もありませんでした。私共は自分等の悪宣傳をきいてゐたので外に出るのが非常に恐ろしくつたし、日本兵が非常に恐ろしくつた。然し窓から見えてゐますと、日本兵は、自分の分をさいて迄飯蓋の御飯や、お菓子や難民に分けてあげてゐました。それで自分も怖くなくなつたので外に出て見まし

た。日本軍は難民に施米もしてゐました。自分の方さへ悪い事をしなければ日本兵は常に禮儀正しくしてゐます。そう云ふ所を何邊も見てゐますので、私が日本軍のよい所を證明致します。

大塚「これで一通り終りましたね、今度はこちらに何でもよいから聞いて下さい。」

薛（大塚事務官に）「貴方は廣東へ行った事がありますか、何日頃いらつしやいましたか。」

大塚「三月十六日に行つて四月七日に歸つて來ました。」

薛「戦後間もない三月十六日の感想を聞きたいと思ひますが。」

大塚「別に戦後でもない時でもないけれど、治安がよく保たれてゐること、目抜き通りは破壊されてゐる

がその割合に治安が保たれ、澤山の人が町に居ました。黄埔につき、報道部の自動車で廣東に行きました。が、木綿の花が臺灣より赤いのが目につきました。紫とげ、所謂廣東櫻ですが、遠い所から見ますと全く櫻の様に綺麗でした。廣東の第一印象はこの様に美しく私の目に映じました。」

薛「廣東婦女會は如何でしたか。」

大塚「残念ですが廣東婦人と話す機会が一度もなく、私は廣東婦人を知りません。只軍より協力方を依頼されたが、それに對しては出来る限り協力した。又現在も協力しつゝあります。」

薛「有難う。」

劉「二箇月の間で廣東人をどう思はれましたか。」

大塚「何分にも短い期間であるので正確には云へませんが、氣持の素直な淡白な、話をすれば解つて戴ける人達だと思ひました。只言葉が通じないからよくは知る事ができませんでした。私よりも廣東に長く滞在した人が二人、短い人が一人居ますから只今述べさせます。」（笑聲）

ここで、劉さんと佐藤氏の間に一しきり文學の話が持上る（省略）

新田「私は廣東に四箇月居たが誰も聞いてくれないから自分から話す。」

十一月十五日に廣東に行つたが、戦の跡そのまゝだつた。沙面の波止場につき廣東の意外な都會、屋根の防空施設に驚いた、日本の空襲におびえた彼等を見た時、私は日本人である有難さ仕合せをしみじみ感じた

のであつた。目抜き通りのバラック、廣東の復興は大變だと感じた。

廣東の生活をして感じた事、水道や電燈の施設が悪い、鐵道のレールは町中に澤山通つてゐるが肝心の電車がない。家の外觀は立派であるが中味は三千年前のまゝなものが多い様だ。この様な二通りのかけ離れた中に生活してゐる民衆を指導する者は近代人である、然しその手に導かれる者は依然として三千年前の人

間である。しつかりした根據のない此等のものが壊されて行つても悲觀するには及ばない。三千年の昔に還つて、しつかりした新支那の建設をすることは却つて支那の爲に喜ぶべき事ではないかと思ふ。廣東人は積極的だ、私は厦門、海南島も視察した。彼等は日本語を積極的に學ぼうとして努力してゐる。それからもう一つ、廣東婦人は洋服地を買ひに香港にまで行くと聞いてゐるが、無意

識の中に英國に頼る心があつてはいけない。貴女達がお歸りになつたら、先に立つてそれ等の婦人を正しく導いてやつて戴きたい。」

一行「有難うございました。」

大塚「色々聞かせて戴き、有難うございました。何卒お歸りになつたら日本内地、臺灣のこれまで見て來た眞の姿を御國の人達に傳へて下さる様、お疲れの所有難うございました。」

汕頭陥落と生徒兒童の感激

諸 學 校

皇軍の南支策戦の戦果は益々擴大されて遂に蔣政権の南支に於ける唯一の輸路たる汕頭も陥落した。尤きに廣東、厦門、海南島と皇軍の到る處 皇威浴く、この一衣帯水にある汕頭の陥落は全島民の感激一入深きものであつたが、この快報に對して島内の生徒、兒童の感激は如何なるものか作文、綴方の一部を紹介する次第である。尙紙面の都合上他の寄稿を割愛したとをお断りしてをく。

臺北州立第一高等女學校四年

伊藤節子

六月二十一日拂曉汕頭に敵前上陸、同日午後二時頃汕頭完全占領と次々に喜ばしいニュースが報導され私共は「まあこんなに早く……」と思はず驚きの眼を見張つた。やがて驚きは喜びに變り早速支那全圖を机上にくり擴げて、赤く塗り潰された占領地の數々に今更の如く見入つてしまふのだつた。そして今又赤い印が一つ殖えたと思ふと、幼な兒の様に喜び、現在着々として行はれつゝある南支攻略の各占領地を一つ／＼數へ上げる私だつた。

然し乍ら銃後の人がこの様に喜ぶ蔭には、光榮ある此の攻略戦に参加した將兵の皆様方の想像も及ばぬ並々な御苦勞の程が察せられて、自づと頭の下るのを覺える。私共の臺灣でも本格的な夏になつて毎日暑さに苦しんでゐるのに、汕頭ではもつと暑さが厳しいと聞いて居る。砲さへ灼ける様な炎熱の中にあつて、瀧の様に流れる汗を拭ひもやらず、進撃又進撃する將兵の方々の戎衣も汗と泥とにまみれていらつしやるだらう。この様に並々な御苦心を重ねそして完全に占領なさつた時の皆様方の喜びはどんなであつただらうか。

汕頭は此の臺灣と臺灣海峡一つ隔てた對岸で將來益々多くの邦人が進出して行くことだらう。南支沿岸の各攻略都市が着々と復興し、日支親善を實現しつゝある時、今又汕頭陥落の報を受けて、丁度狭苦しい籠の中から無限に廣い自由の天地に放たれた小鳥の様に將來の活躍の舞臺がうんと廣くなつた様な氣がした。私達の學校の先輩も随分或は白衣の天使として或は鍵を叩く女性として又その他種々の方面に雄々しく大陸に進出し、馴れぬ氣候や風土に惱まされつゝも職業戦線に奮闘してゐるのだ。日本は今南進しつゝある。臺灣はその點に於て重大な使命を帯びてゐるのだ。そこに住む私共は將來學校を巢立つてから唯うかうかと意氣地なく國內に閉ぢこもつて居るよりもどん／＼對岸に進出しよう。そして本當に徹々たる力ではあるけれど長期建設に、東洋平和の建設に貢献しようではないか。家庭に歸り家庭を守ること勿論大切ではあるが、汕頭ばかりでなく南支に最も近い臺灣の若い女性には之位の強い意氣込みがなければいけないと思ふ。

事變勃發以前、汕頭には内地人百三十人、臺灣人五百人もが在住したのであるが、何れにしても排日毎日の影響で思ふ存分の活躍も出来なかつた苦い経験を再びは繰返さない様に、よく日支提携の實を擧げて行かなくてはならない。之等のことに就いて海一つ隔てた臺灣島の島民が力癩を入れ、あらゆる機會を利用して親善を深めたならばきつと平和の光が輝やくことだらう。何れにしても第一線將兵の皆様方があらゆる困難に打ち勝つて占領した、その御苦心を水泡に歸せしめる様な行爲は、かりそめにもあつてはならない。私共が此の様に前途に大きな希望を持つて邁進してゐる時、支那の國民政府はどんなに悩んで居ることか。悪夢から醒めずに迷つて居る蔣介石以下が何だか氣の毒な様な氣もするが然し何れにしても小氣味よく感じる。汕頭・廈門は幾多の商港が陥落して、後に残された彼の唯一の輸血路であつたのに、之を奪はれた蔣政権は全く手足もぎ取られた人形の様だ。唯一つ邪魔なものは、今迄盛んに援助して來た蔣政権が次第に没落するのに氣をもんで、

のさばり出て来た英國である。汕頭攻略戦にも少なからず害があつた。あまりにも狡猾なやり方だと思ふ。之が除かれたら、長期建設の實は益々あがり、東洋平和の實現もさう遠くはあまい。

最後に汕頭攻略戦に参加なされた海陸將兵の皆様方が今後共御健康で御武運強く御奮闘なされん事を神かけて祈り、又汕頭の治安が一日も早く回復され、平和の光がやさしく其の手をさしのべて益々繁榮を來す様に祈つてやまないのである。

○ 臺北州立第二高等女學校四年

西村 敏子

「あつ汕頭附近敵前上陸」

二十一日午後私は學校の掲示板に見入つた。そして閣下の所に吸ひ着けられた。我陸海軍精銳部隊は本二十一日拂曉極めて緊密なる協同の下に敵前上陸を敢行し、破竹の勢を似て敵を撃破進撃中なり。一息に讀下した私は感激の餘り立竦んで了つた。

なんとといふ頼しさ。胸のすく様な、また喜びに胸のふ

くらむ思ひであつた。

そして南支の地圖を頭に描いて見た。厦門、汕頭、廣東と殆んど同じ位の距離をおいて重要海港が控へて居るが已に他港は封鎖されて、唯一つ汕頭だけは目こぼしの様に残つて居て、もはや斷末魔の喘ぎにも似た蔣政權の海からの物資の供給地であり、輸血路となつてゐると聞いてゐる。蔣介石にとつてはこの地がどんなにか力綱であつたらう。

しかも又こゝは南洋華僑の出身地でもある。約二百四十萬にも達し、海外に於てあらゆる事業に従事し、一大勢力を形成してゐる華僑と蔣介石の關係は實に密接で華僑の富が蔣政權の抗戦力を続けさせる大きな役割をしてゐると聞くだけでも、どんなにか今度の汕頭攻略が重要性を帯びてゐるか伺はれる。

事變以前から汕頭は反日氣分が盛んであつて租界もないので内華人合せて千にも満たぬ在住者よりなかつた由。之等邦人は事毎に狂暴の限りを盡されたが、少數の人達でよく團結してあらゆる壓迫に耐へて來たが、遂に血と汗の結晶である地盤を捨て、引揚げを餘儀なくされ

たのだと聞く。之等同胞はどの様に今日の喜びの日を千秋の思ひで待つて居たことだらう。

惡辣執拗な反日思想の一據點に下された鐵鎚の意義は又大きい。

特に一衣帯水の本島との利害關係に思ひ到る時、この快報は實に感激そのものである。それが萬歳歡呼の嵐となり日の丸の旗の海となつた。私達は歡喜に頬をほてらせて、内に溢れてくる力を目の丸の小旗にこめて打ち振つた。奉祝の旗行進は巷から巷を埋め盡した。現地の將

兵の方にとゞけよとばかり歌ふ力強い軍歌のうづまき、小學生の元氣に溢れた歡呼のどよめきの中に私達は一層新なる感謝の念を遙かに送り、そして輝かしい國土に育まれる私達の幸をしみじみ味はつたのであつた。

次々とニュースは報じられた。折開面は汕頭のニュースで埋められた。特派記者の報道する記事を私はむさぼる様に讀んだ。敵前上陸の際には折柄の風も風ぎ淡いガスが自然の煙幕の様に邊を罩め、満天の星は幸先を祝ふが如く輝いて居たとか。涼々しく武裝を固めた我勇士は

逞しい眉に必勝の氣魄をこめて、果敢に任務を果されたといふ。神意に添うた聖業は、何時も天祐が惠まれるのだ。有難いことである。

更に此頃の新聞は復興汕頭を報じてゐる。早くも汕頭には親日氣分がみなぎり、何處にも破壊の跡はなく、我荒鷲が撒いた傳單に市民は落着き、治安維持會は生れ、安居樂業にいそしみ我が軍の入城を心から迎へ、蔣政權の壓迫から解放された事を喜び合つてゐるといふ。こゝにも建設戦の深い意義が示されてゐるのである。

今や天津は租界問題で我が國の微動だにもしない確固不拔の精神を遺憾なく發揮し、各所に反英運動の起りつゝある時この汕頭占領はどんなに日本の底知れぬ實力を各國に再認識させたことか。

又これによつて致命傷を受けた蔣政權を飽くまで膺懲し興亞建設の大業に邁進しつゝある日本の我等銃後の女性として私達はこの劇的な汕頭攻略を膽に銘じ、尙一層心を引締め、よく時局を認識し、國策の線に沿ひ、強く、正しく、慎ましく次代の女性としての修養をしかと

身につけたいものであると我が心に固く誓つたのである。

○ 臺北州立第三高等女學校四年

蘇 氏 秀

汕頭陥落の萬歳を叫び、市内を行進する時腦裏をかすめた無敵敵前上陸の語、思はず微笑ましくなりました。我が皇軍の一致團結のもとには、如何なる敵も屈する、必ず服すると獨りでうなづきました。蔣政権の足掻も早晩最後になるでせう。それに代つて注意すべきは第三國の態度であります、しかし神ながらの國我が大日本にどうして外國の乗する隙がありません。けれど明日の日本をうけ嗣ぐ若い私達に心の隙があれば、外國は其れにつけ込んで来ることは當然であります。今こそ若い力の堅實さは要求されます。今日のこの意氣に燃えて、私達は堂々と亞細亞の行進譜を大陸に進めたらその理想は達せられませう。蔣政権に迷はされた中華民國の間違つた抗日の夢を、根本的に叩き直す義務は一億國民の肩にかゝつて居ます、この時に當つて一人でも、その本分に所

を得ず、眞の立派な日本人になり得ないとすれば、これこそ末代迄の恥だと、胸にたぎる熱いものを感じます。さうだ、汕頭は陥落した。臺灣と一衣帯水にある汕頭が陥落したのです。そして汕頭からの引揚民は臺灣神社へ御禮の參拜をされました。けれどこれは南支新秩序建設の序にすぎません。私達は皇軍の將士に感謝の念を忘れぬと共に、銃後のつとめに一層の拍車をかけねばならないと、考へつゝ、愛國行進曲の心地よいひびきを市中に轟かして行進をつげました。

○ 臺北市樺山小學校六年

藤 弘 昭 三

我が無敵海軍飛行隊の精銳部隊は、陸軍部隊と協力して、去る二十一日曉の空をけつて、汕頭附近に敵前上陸をし、目覚ましい働きぶりを發揮して、敵トーチカ陣地を占領した。この喜びを聞いた僕達小國民の喜びは一通りではない。思はず萬歳を唱へた。そして、あの炎天下に夜となく晝となく寢食を忘れて働かれる我が勇士に断たなる感謝の念がわき上つた。

「兵隊さん有難う」

僕はこう心の中で言つた。臺灣に住んで居る僕達には、この感激は一層身にしみて嬉しい。全島の生徒、兒童はこの喜びを祝する爲、行進歌も勇ましく、旗行列をして皇軍の勇士に感謝の誠を捧げた。

六月の空は、うららかに晴れ渡り、所々に淡い白雲がただよつて、今日の喜びを共に祝福してゐるかのやうである。

「大日本帝國萬歳」

「連戦連勝」

と、筆太に書いたのぼりを先頭に、僕たちは、手に手に日の丸の旗をふりながら、足どりも軽く勇躍總督府へと向かつた。あなたあなたから押寄せて来る各學校兒童の旗の波、しばらくして、總督閣下も見えられ、石井市尹の發聲で、一同大日本帝國萬歳を三唱。この喜びの聲は汕頭に活躍の我が勇士にとどろけよとばかり、天地に響き渡つた。

ついで軍艦マーチを高唱しつゝ、藤重部隊へと向かつ

た。やがてその歌は愛國行進曲に變る。赤銅色の顔に元氣一ぱいの勇ましい兵隊さん達も我がことの如く喜び萬歳にこたへられた。それから軍司令部に至り萬歳を三唱した。つゞみきれぬ喜びを以て、兒軍司令部もこの歡聲に答へて萬歳を唱へられた。

太陽は、えんりよなしに、僕達を照りつける。ひたひから流れる汗が眼にしみこむ。からだ中汗だらけになりながら、皇軍の勞苦を偲びつゝ、町中をねりまはつた。

太平洋行進曲が一きは高くなりひびけば、前や後の團體から、日本陸軍の歌や愛馬進軍歌が汕頭にとゞけとばかり聲高らかに唱へられて行く。

○ 臺北市永樂公學校六年

陳 氏 莒

弟と外で遊んでみると「ちりん／＼」と遠くの方で音がする。「おや」と思つてみると鈴をならした號外屋さんが號外をなげていつた。ひろつて見ると「皇軍が汕頭に進入した」と大きく書いてあつた。

その翌日の晝休みに先生が「我が皇軍が汕頭といふ町

を占領した。その祝賀行列を明日やるから旗を用意して来なさい」とおつしやつた。今まで待つてゐた私たちは、一度に「わあ」と叫んだ。萬歳を叫ぶ者もあれば手をたたく者もある。明日が待遠しい。明日旗行列があるよ。うれしいな。とくりかへしながら、かばんを下して旗はと思つて取り出すと、この前アイロンをかけたのできれいになつてゐた。

今日は旗行列の日だ。校服もきれいなのに着かへ、旗をもつて學校へと急いだ。やがて整列し五・六年は總督府前に、四年以下は永樂町をまはることになつた。愛國行進曲を歌ひながら、元氣よく學校を出た。途中で日新公學校に出合つた。總督府の前にはもう外の學校の生徒が、たくさん集つてゐる。しばらくしてから歩き出す。軍艦マーチを歌ひながら、總督閣下の前まで進んで、西村先生について萬歳を叫んだ。しばらくの間はなにもかも忘れて夢中で歌つた。歌もいつの間にか日本陸軍にかはつた。先生が音どをとると「天に代りて不義を打つ」とのどもさげよとばかりに歌ひ出す。しばらくははつてかへる時には私のせなは汗でびつしよりぬれた。悦子

さんも同様で汗をふきく歩いてゐる。軍歌を歌ひながら歩いてゐるがだん／＼つかれて歌ふ聲が小さくなつたけれども學校に近づいた時には又大きな聲でうたつた。教室に入つてからしばらくして水を飲んだ。とてもつかれたが一日に幾軒も進む兵隊さんのことを考へるとまだ／＼足りないと思つた。ほんとうに今日の旗行列は楽しかつた。

樺山小學校五年

市橋葉子

六月二十二日に油頭が我が皇軍の勇ましい兵隊さん方のおかげでついに陥落しました。

私たちは手に／＼日の丸の旗を持ち、喜び勇んで旗行列に參加いたしました。

校門を出る前に校長先生の音頭で、私共は思ひきり大きな聲をはりあげ油頭の兵隊さんの所まで聞えよとばかりに、大日本帝國萬歳を叫びました。

「海の民なら、男なら。」と、太平洋行進曲をうたひながら總督府前に行列をそろへて行着きました。やがて總督府前に着いて、十分位立ちどまつて居ます

と、のどはかほくし體はだるくなりましたけれども、戦地に行つて居られる兵隊さんの難儀なことを思へばなんでもありません。

今頃兵隊さん方は何をしたらつしやるだらうか、かつてかぶとのをしめよと言ふとほりに、武器の手入れをしたり又はひさしぶりにこきやうへ手紙でもかいてられるだらうかと、遠く戦地のことを思つて居ますと、まもなく參加いたしました團體が旗を高くふりあげ、天地にとどろくばかりの萬歳を三唱いたしました。今度は樂隊に合せて、足なみそろへて總督さんの前を通るのです。

總督さんの前を通りますと、先生が萬歳をとなへられますので、私たちもそれについて萬歳をとなへました。總督さんにも／＼されて旗をおふりになりました。各團體が今度は藤重部隊の方に行きました。

藤重部隊の前にはききと、兵隊さんが日にやけた真黒い顔によろこびを浮べて立つていらつしやつて、私たちが旗をふり／＼萬歳／＼と言ひますと、手をふつたり帽子をふつたりしていらつしやいます。

今度は後藤部隊に行きました。門をくぐりますと五六人の兵隊さんが／＼と私たちをむかへて下さいました。すこし行くと少し高い臺に將校の方が立つて居られて、私たちが萬歳と言ひますと旗をふつて下さいました。それからはずつと馬小屋だつたのでせう、馬のにはひがぶん／＼いたしました。この馬小屋の馬はきつと戦地で兵隊さんと共に、苦らうをする尊い無言の勇士と思へば、いひしれぬ感じにうたれました。

その門を出て少し行きますと、軍司令部がありました。私共はこゝの門もくぐりました。ふと上を見ますと建物の上の方に、おそれおほくも菊のごもんがあらました。私は帽子をとつておじきをいたしました。

軍司令官閣下は臺の上から、私どもの萬歳に答へて下さいました。門を出るとやれ／＼と思ふ心の弱さ、私はいへんつかれてぐつたりなつてしまひさうでしたが、自分で自分の心を叱りまして、戦地の苦さと不自由を思ひ、一日に幾十里と強行軍をなさる御くらうをしのびまして、勇氣を出して學校へ歸りつきました。



事變日誌

臨時情報部

二六

打撃を與ふ

敵遺棄死體 一七、五〇〇

捕虜 一六〇七

鹵獲品 一五

山砲 一八

重機 二二

輕機 二二

小銃 二、六四四

我方の損害 死 六五二

○岳州、崇陽方面一薛岳麾下の約

十三個師を南方に撃退其の蠢動を

封止す

戰果 敵遺棄死體 六、三〇〇

捕虜 一二二

鹵獲品

○國技館に於て三國干涉排擊國民大

會を舉行排英恐米親佛論の粉碎を

強調日、獨、伊、軍事同盟の即時

締結を望むその他五ヶ條の宣言文を

決議す

○我北洋漁業に對するソ聯の不法壓

迫頻出我方強硬態度に出るに決定

○張店鎮(山西省)東方二萬の敵の大

殲滅戰を展開

六月十三日

○中支方面戰況

イ、西部大別山に蠢動し居れる李宗

仁麾下の約二十個師に對し潰滅的

六月十一日

○空軍の活躍

【成都】四川省一突如襲撃し挑戦せる

十八機と壯烈なる空中戦の後三機を

撃墜せる外市内重要建物を粉碎す

六月十二日

○平沼首相を名譽會長に與亞書道聯

盟を結成

○事變二周年を前に北支の治安飛躍

的回復残すは山西一部の肅清のみ

○成都及重慶を爆撃敵機三機を撃墜

○蘭印女教員見學團來朝

○泰山々脈中の嶺嶺雲蒙山の敵を攻

撃中

追撃砲 一

輕機 一七

小銃 一八六

我損害 一二四

ハ、南昌方面一南昌、奉新方面新占

據地區の羅卓英麾下十七個師に對

し徹底的打撃を與ふ

戰果 敵遺棄死體 正、八五〇

捕虜 一三三

鹵獲品 三

迫撃砲 五

重機 四四

輕機 八四六

十銃 一九二

我方損害 死 一九二

○有田外相閣議席上並に參議會に於

て天津に於ける對英佛租界問題に

對する政府の強硬態度を闡明

○空軍の活躍

【重慶】四川省一蔣介石官邸、國民政

府建物修理廠に投擲して粉碎、此間

敵機二機を撃墜す

六月十四日

權店占領

○南關鎮南方地區一帯の敵第百三十

九師を猛攻撃二十五日午前分水嶺

南方三キロの地點に於て約四百の

敵と交戦之を剿滅次いで午後三時

半權店に突入して之を占領す

空軍の活躍

【芝罘】(山東省)一殘敵を掃蕩

【南寧】(廣西省)一軍需品倉庫群を爆撃

【奉天】(遼寧省)一軍需

施設、集積せる軍需品致し舟艇百隻

を爆撃徹底的打撃を與ふ

○十五日迄に判明せる魯南地區の戰

果

交戰敵總兵力 三六、四一四

敵死體 二、五九四

捕虜 四九

鹵獲品 一、二一四

小銃 五二、五三二

同彈藥 四一

輕機 七

重機 五、八〇〇

同彈藥 二、六七七

手榴彈 二、三

同彈藥 一〇、〇五三

六月十五日

○海南島に於ける海軍陸戰隊の一部

隊は陵水北東方八キロの地點に集

結潛伏中の殘敵を奇襲之を包圍殲

滅す

六月十三日

【安東】一敵密集部隊を銃爆撃潰滅的打

撃を與へたり

二七

六月十七日

○萬寧(海南島東岸)附近部落の殘敵を空襲多大の損害を與ふ

○日照(山東省)敵據點を攻撃

○莒縣東南三十五キロ黒溝附近の敵四千に對し捕提殲滅戰を展開

○周村(南昌東方)を占領

六月十八日

○伊國新鋭潜水艦フアーデーブルノ號スベチア軍港に於て進水

○魯南東南方黒溝溝及其の北方孔溝金庄の敵二百一師を南方より挾撃潰滅的打撃を與ふ

○大流泉、無料店、上治方面に退却したる敗殘山東第三區保安隊の一千二百は北方よりの遊撃を蒙りて敗走黃家溝東方山地に追詰められ今や殲滅の浮沈にあり

六月十九日

○伊佛兩軍事當局司令官を訪問

○佐世保鎮守府司令官以下臨場の下に最近鋭驅逐艦鐵風の進水式を舉行

○ドーマン駐日米國代理大使、吉澤亞米利加局長を外務省に訪問天津租界問題に關して會談

六月二十日

○午前十時鐵道省内大會議室に於て日滿支連絡運輸統一規定審議會開催

○瓊山市民大會を開き縣政府組織を要望

○武漢の教育施設着々整備され新生支那人的資源育成に當る

○森岡長官岳父逝去葬儀參列の爲空路内地へ

六月廿一日

○翁田、錦山、羅豆(海南島東北部)を占領

を占領

○江蘇省南部口岸鎮附近に於て敵正規兵部隊と遭遇交戦一時間の後之を撃退せしむ

六月二十二日

○海南島南部樂安城を襲撃甚大なる戦果を收む

○カンジュール廟上空に越境せる外蒙機百五十機と交戦四十九機を撃墜

○粵東派遣軍司令官安民布告を發す

六月二十三日

○垣曲(山西南端)を完全に占領

○北京に於て和平救國委員會及び各界共同主催の反英民衆大會を舉行

○青島青年團反英民衆大會を舉行

○沂水、新泰間泰山々脈に遁入集結中の敵約三萬に對し山岳殲滅戰を

展開

○重光駐英大使は八英外相と天津問題に關し重要會談をなす

○海軍陸戰隊林梧市(新埠港南方二キロ)を占領

○定海、岱山島を占領

海鷲の活躍

○連城、和平、南雄、贛州(廣東省)一埠頭橋梁軍用舟艇群を粉碎

○陽隄(廣東省)軍用自動車四十臺を爆撃至大の損害を與ふ

○湘陰(湖南省)重要軍事施設に爆彈多數を投じ徹底的打撃を與へ多大の戦果を收む

○常德(湖南省)軍事施設に爆彈多數を投じて徹底的打撃を與ふ

六月二十四日

○山西省南部に於て敵を完膚なきまでに撃破したる我部隊は早朝浦縣、垣曲街道に進出、岷々たる斷

崖の余家山を突破、皋落鎮に入り

別部隊と協力中條山脈に奮動を續け居れる殘敵に對する掃蕩戰態勢完備し大殲滅戰を開幕

○洪凝鎮(魯縣東北)を占領

○泰山々脈及高縣東北山地の敵に對し第二次殲滅戰を展開

○我舟山島攻略部隊小沙庄(定海北西)及び白泉庄(定海北東)附近の殘敵を掃蕩

海軍航空隊の活躍

○常德、湘陰(湖南省)軍事施設、倉庫群を大破

○南豐、建昌、撫州、零都(江西省)軍事施設を爆撃

○ボイル湖(滿蒙國境)滿蒙國境上空に於て外蒙機十五機を撃墜

○潮州(廣東省)地上部隊に協力附近に散在する敵陣地數箇所を爆撃

至大なる戦果を收む

六月二十五日

○儀縣、那大(海南島西北部)附近に於て奮動し居れる敗殘兵に對し肅清戰を展開

○達濠島(汕頭對岸)を占領

○公家場(東亞店西市)の敵約二百五十に對し徹底的打撃を與ふ

○汕頭作戦に於ける海軍側防護品貨物自動車十數輛
汽船(二百噸級)一隻、(五十噸級)三隻

空軍の活躍

○鎮海(廣東省)砲臺及附近の軍事施設を爆撃

○玉山、麗水、建甌、上杭、贛州、韶關、龍州、龍口軍事施設倉庫群及び自動車群等を爆撃粉碎す

六月二十六日

○皇后陛下靖國神社に行啓遊ばさる
 ○潮州に肉迫
 ○ボイル湖上空のツアンガオボ上空に不法越境し來れる敵機六十機を邀撃六機を撃墜せしむ
 ○冀中地區強東北十一キロ附近の敵約二千を猛攻完膚なきまでに粉砕走せしむ
 六月二十七日
 空軍の活躍
 ○福州(福建)―金牌門砲臺を爆撃
 ○官塘、水口、興寧(廣東省)―敵陣地及密集部隊を攻撃、之を爆破潰走せしむ

○皇南地區の綜合戦果
 交戦回数二百二十八、交戦敵兵力六萬五千四百、敵遺棄死體七千五百四十、捕虜四百二十六、爾獲品小銃二千五百四十三、同彈藥十一萬五千六百六十七、拳銃六十一、同彈藥四千六百七十六、自動小銃六、重機銃二十八、輕機銃二百二十六、同彈藥一萬六千八百、手榴彈三千四百七十六、洋砲三百六十九
 ○五月二十日より六月二十七日に至るまでのノモンハン方面空中戦及びタムスクの敵飛行根據地爆破の綜合戦果
 空中に於て遭遇せる敵機延數五百六十機その中二百五十一を撃墜、不時着後地上にて爆破せるもの三十機、我方損害九機
 ○虎頭島、玉環島、坎門港を占領
 六月二十八日
 ○從化(廣東省)―附近に於て敵約二千を撃滅
 ○花縣(廣東省)―平地に於ける約五千の敵を包圍攻撃北方及西北方に

潰走せしむ
 ○竹田宮殿下には北支戰線に於て御活躍のところ午前七時門司御着御歸還遊ばさる
 ○奉新(四川東端)―軍需品倉庫軍事施設を爆破粉砕せしむ

昭和十四年七月九日印刷(月三回發行)
 昭和十四年七月十七日發行
 臺灣總督府臨時情報部
 臺北市榮町二丁目十五番地
 印刷人 加藤 豊吉
 臺北市京町一丁目四十三番地
 印刷所 小探本店印刷工場

「部報」刊行の趣旨

本府の行はんとする政策の内容や意圖を普く一般島民に傳へて其の正しい理解を求め、總親和總努力へと一歩を前進し、又法令の趣旨や内容の普及を圖り、他方、時局の新段階に則し、明朗南支の狀況、銃後臺灣の活躍振りを廣く全國に紹介し、更に、本府の各種機關に依つて得られる内外の情勢、經濟、學術、技藝等に關する資料を公表して、當府と一般島民との接觸を緊密にし、公明な政治の遂行に寄與せんとするものである。
 × × ×
 奮つて御寄稿あらんことを祈る。
 尙掲載記事に對する御希望あらば情報部宛にお知らせを乞ふ。

「部報」配布状況調 (昭和十四年七月十一日現在)

島内之部		島外之部		總計	
配先	個所部數	配先	個所部數	配先	個所部數
府各局課	36	府各局課	36	府各局課	36
直轄學校	8	直轄學校	8	直轄學校	8
公立圖書館	1	公立圖書館	1	公立圖書館	1
郵便局	27	郵便局	27	郵便局	27
軍部關係	3	軍部關係	3	軍部關係	3
銀行會社	3	銀行會社	3	銀行會社	3
新聞雜誌社	2	新聞雜誌社	2	新聞雜誌社	2
華僑新民公會	1	華僑新民公會	1	華僑新民公會	1
計	83	計	83	計	83
外之部	875	外之部	875	外之部	875
內閣及各省	100	內閣及各省	100	內閣及各省	100
總督府東京出張所	100	總督府東京出張所	100	總督府東京出張所	100
各府縣廳	775	各府縣廳	775	各府縣廳	775
計	1000	計	1000	計	1000
全國市役所	147	全國市役所	147	全國市役所	147
官公立圖書館	6	官公立圖書館	6	官公立圖書館	6
朝鮮總督府	1	朝鮮總督府	1	朝鮮總督府	1
北海道廳	1	北海道廳	1	北海道廳	1
北支總廳	1	北支總廳	1	北支總廳	1
樺太廳	1	樺太廳	1	樺太廳	1
南洋廳	1	南洋廳	1	南洋廳	1
新聞雜誌社	3	新聞雜誌社	3	新聞雜誌社	3
華僑新民公會	1	華僑新民公會	1	華僑新民公會	1
計	161	計	161	計	161
南洋日本公會	53	南洋日本公會	53	南洋日本公會	53
南洋公會	8	南洋公會	8	南洋公會	8
汕頭	11	汕頭	11	汕頭	11
海島	7	海島	7	海島	7
廣東東門	7	廣東東門	7	廣東東門	7
廈門	4	廈門	4	廈門	4
中支支洲	7	中支支洲	7	中支支洲	7
北支支洲	3	北支支洲	3	北支支洲	3
滿洲支洲	8	滿洲支洲	8	滿洲支洲	8
雜社	3	雜社	3	雜社	3
新聞雜誌社	1	新聞雜誌社	1	新聞雜誌社	1
南洋支洲	1	南洋支洲	1	南洋支洲	1
計	161	計	161	計	161
總計	1610	總計	1610	總計	1610

郵 昭和十二年九月二十日第三種郵便物認可
昭和十四年七月十一日發行 (毎月一日、十一日、廿一日發行) 第六十七號

— 本書の大きさは既定規格(A5)判 —

